

再発見！何でも見てやろう

造幣局見学 1班・2班

1班 石黒 洋子



令和5年6月の造幣局工場と博物館見学は、1班2班のそれぞれ火曜・木曜コースに分かれました。工場見学の予約人数がまとまって取れずに午前・午後に、また、見学の流れを工場見学から博物館と逆に博物館から工場見学とマチマチになりました。時節柄、雨模様にも。工場見学では、丁度NHKのバックヤードを見た方が500円硬貨を握って来られ熱心にガイドさんの説明に耳を傾け、質問もされていました。ビデオで工程の流れを頭に入れてからガイドさんが

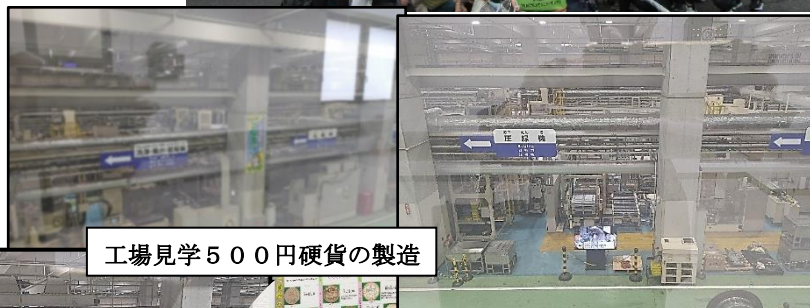
ついたのでよく理解でき興味が湧きました。消費税関係で1円玉が多く発行された年、最近3年間はクレジット決済で1円玉が造られていない事、古い硬貨は再生されている事。

博物館では、古代から外国も含めての珍しいこれがお金？と思うようなユニークな形のお金、江戸時代の小判造りのミニチュア、皮財布や千両箱、現代のオリンピックメダル・勲章・各県のコイン（大阪は仁徳天皇陵）等々盛沢山な展示でした。

先日のなんでも鑑定団の貿易銀で金工師加納夏雄の名前が出てきましたよ。

お昼は桜ノ宮公会堂を予約されたり、帝国ホテルの横のOAP地下で食べたり。

午後は有志で、オプションの蔵を改造した藤田美術館に行き、庭園やお抹茶も頂きました。





独立行政法人造幣局（ぞうへいきょく、英：Japan Mint）は、硬貨の製造、勲章・褒章および金属工芸品等の製造、地金・鈳物の分析および試験、貴金属地金の精製、貴金属製品の品位証明（ホールマーク）などの事業を行う日本の独立行政法人（行政執行法人）。

明治新政府は1868年5月16日（慶応4年4月24日）に旧金座および銀座を接收し、6月11日（慶応4年閏4月21日）に貨幣司を設けて二分判および一分銀などの鑄造を引き継がせている。1869年3月17日（明治2年2月5日）に貨幣司が廃止されて太政官に造幣局が設置され、8月17日（明治2年7月8日）に造幣局は造幣寮へ改称されて大蔵省所属となる。

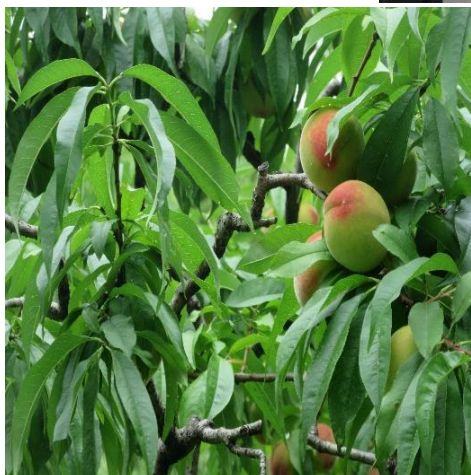


藤田美術館のコレクションは、明治時代に活躍した実業家、藤田傳三郎と、息子の平太郎、徳次郎によって築られました。

大名旧家や寺社に伝えられてきた文化財の多くが、明治維新を機に、海外へ流出したり、国内で粗雑に扱われたりすることに傳三郎が危機感を覚えました。傳三郎は、実業家であると同時に、若い頃から両親に物数奇を戒められながらも、とうとうその性質を変えることができなかつたほどの美術品愛好家でもありました。「この際、大いに美術品を蒐集し、かたわら国の宝の散逸を防ごう」と決意して蒐集に乗り出しました。美術品への想いは嗣子らがその志を受け継ぎ、「これらの国の宝は一個人の私有物として秘蔵するべきではない。広く世に公開し、同好の友とよろこびを分かち、また、その道の研究者のための資料として活用してほしい」と、1954年に藤田美術館を開館させました。



国重要文化財・泉布館・桜ノ宮公会堂



藤田美術館

国宝「曜変天目茶碗」

←曜変天目茶碗を
参考にした西陣織